

仙神宗
仙神寺柳山神社

柳山神社大祓全集

神仏とは、日々の生活の中で、

自然、風景、日々の事象の中から、

肌で感じ、気配を感じ、第六感で感じ、

全身で感じるものであり、

そして全てを教わる、

それから神仏との対話が始まる。

第壹章

祝詞式次第

先ずは神様をお呼びする。

降神の儀（こうしんのぎ）

二拝 九拍手

※二拝九拍手（祈念）一拝は、最高神、天之御中主大御神様に捧げる最も良い数である、九は最高の数であるがゆえに、最高神を呼ぶのに最も良い数、九回の拍手打つ。

本当の御名前は、ミナカヌシ様ですが、アメノ、アマノは、総称です。

アメノミナカヌシオオミカミ、アマノミナカヌシオオミカミと呼ばれているが、どちらも正解の呼称であります。

※○印は、鼻から深呼吸して。

○あまのみなかぬしおおみかみ

○あまのみなかぬしおおみかみ

○あまのみなかぬしおおみかみ

とゆつくり三回唱え、

○み ○み ○み
 な な な
 か か か
 ぬ ぬ ぬ
 し し し

とゆっくり三回唱えて、唱えた後に、

○オー と、一息でゆっくり唱える。

○オー と、一息でゆっくり唱える。

○オー と、一息でゆっくり唱える。

※みなかぬし と、一息で約(15)秒(約二十一回)唱え×六回唱える事も大事である。

一 拝

※神前に立ち、祝詞を奏上する時、先ず二拝し、次の祓祝詞と神棚拝詞祝詞を奏上する。

祓祝詞（はらえのりと）

かけまくも かしこき いざなぎの おおかみ

つくしの ひむかの たちばなの おどの

あわぎはらに みそぎ はらひ たまふ ときに なりませる

※山吹色文字は、読まない、※黒文字だけ読むこと。

※衣服を脱いだ時に成った神々

※杖 つきたつ ふなとの かみ

※帯 みちの ながち はの かみ

※袋 とき おかしの かみ

※衣 わつら ひの うしの かみ

※袴 ちまたの かみ

※冠 あきぐひの うしの かみ

※左腕輪 おきぎかるの かみ

※左腕輪 おくつ なぎさびこの かみ

※左腕輪 おきつ かひべらの かみ

※右腕輪 へぎかるの かみ

※右腕輪 へつ なぎさびこの かみ

※右腕輪 へつ かひべらの かみ

※潮流の中流で清めた時に、黄泉の国の穢れから成った神々

やそ まが つひの かみ おお まが つひの かみ

※その禍を直すために成った神々

かむな おひの かみ おおな おひの かみ いづの めの かみ

※潮流の底で清めた時に、成った神々（上記三神Ⅱ綿津見三神 下記三神Ⅱ住吉三神）

そこつ わたつみの かみ そこつ つのおの かみ

※潮流の中程で清めた時に、成った神々

なかつ わたつみの かみ なかつ つのおの みこと

※潮流の表面で清めた時に、成った神々

うわつ わたつみの かみ うわつ つのおの みこと

※最後に顔を洗った時に成った神々（三柱のうずのみこⅡ三貴子）※黙読する事。

※左目 あまてらす おおみかみ ※右目 つくよみの みこと

※鼻 たけはやすさのおの みこと

はらえど よはしらのかみたちと ともに もろもろの まがこと
 つみ けがれを はらひ たまひ きよめ たまふと もうす ことを
 きこしめせと かしこみ かしこみも もおす

※神前に立ち、祝詞を奏上する時、先ず二拝し、次の祓祝詞と神棚拝詞祝詞を奏上する。

祓祝詞（はらへのりと）

かけまくもかしこき いざなぎのおおかみ

つくしのひむかのたちばなのおどの

あわぎはらにみそぎはらひたまひしときに

なりませるはらへどのにじゅうろくしんの おおかみたち

もろもろの まがごと つみけがれ あらむをば

はらひ たまひ きよめ たまふと まをす ことを

きこしめせと かしこみ かしこみも もおす

神棚拝詞祝詞（かみだなはいしのりと）

これの かむどころにます かけまくも かしこき

あまのみなかぬしのおおみかみ たかみむすびのおおみかみ

かむみむすびのおおみかみ あまてらすおおみかみ うぶすなのおおかみ

（いにぎのみこと）

やなぎやまおおやますみおおやまがみたちの

おおまえを おろがみまつりて

かしこみ かしこみも もうさく

おおかみたちの ひろき あつき みめぐみを かたじけなみ まつり
たかきたふとき みおしえの まにまに なおき ただしきまごころ もちて
まことの みちに たがふ ことなく おいもつ わざに はげましめ たまひ
いえかど たかくみすこやかに よのためひとのために つくさしめ たまへと
かしこみ かしこみも もうす。

大元造化三神報恩之祝詞『現代語訳』（だいげんぞうかさんじんほうおんののりと『げんだいごやく』）

言葉に掛けて、申し上げるのも、恐れ多い、天地根源の神様で在らせられる、天之御中主の 大御神、高皇産霊の 大御神、
神皇産霊の 大御神達の、不思議で絶妙な、御恩恵によって、この世に生まれ出てきた、我々の、身の上ならば、その御恩恵に、
むく たてまつ 報い奉ろうとして、御称え、申し上げますには、いよいよ高く、底知れぬ、天上界の、幽界を、主宰され、

始めもなく、終わりもなく、盤石に、永遠に、御鎮まりになられて、目には見えない、根源のエネルギーは、百種類に近い、
かみ えねるぎー 神のエネルギーを、生じ給い、目に見えるものは、昼の世界、夜の世界を、主宰され、またこの地球にあっては、

現代を、生きる人を始め、呼吸をする生き物も、呼吸をしない物も、この世に、ありとあらゆるものの限りを、生み出し給い、
しはい 支配され、御守り下さり、幸をお与え下さる、ご功績の、偉大で、悠久で、広くて、厚い、大きな愛情を、蒙って、

この現世に、生きている限りは、大御神様達の、元となる、御心そのままに、この真心を尽くさせて、頂いて、怠慢にならず、
うつつしよ 尊敬し、畏怖の気持ちで、お仕えする様子を、御心も穏やかに、お聞き下さいまして、全世界の人々を、天地の神理に違わせず、

ひら 開けた世の中に、後れることなく、さまざまな災難さいなんが無く、つつがなく、存在そんざいさせて下さり、
 よる 夜も、昼も、昼夜分ちゅうやわけず、御守おまもり、御恵おめぐみ下さり、幸さいをお授さずけ下さい、と、

おおぞら 大空を、遥はるかに、拜おがませて、頂いたきます、と、申もうし上げます。

大元造化三神報恩之祝詞 (だいげんぞうかさんじんほうおんののりと)

※この祝詞は社に向かい唱えるものでなく、無形の空を仰ぎ奏上する祝詞です。

かけまくも いとも かしこき あめつちの もとつかみ

あまのみなかぬしのおおみかみ たかみむすびのおおみかみ

かむみむすびのおおみかみたちの くすしく たえなる

みたまの ふゆによりて この うつしよに あれいでたる みにし あれば

そのもとつ みめぐみに むくい たてまつらむとして

ただへごとを へまつらくは いやたかく そこひなき

たかまのはらの かくりよを しめ たまひ

はじめもなく おわりもなく ときはに かきはに しづまり まし まして

めにみえぬ もとつけは ももたらず やその かみけを なし たまひ

めにみゆるものは ひのみくに つきのみに ほしのみくに

またこれの おおつちに ありては

うつしき あおびとくさを はじめ いきあるも いきなきも よにありとし

あるものの かぎりを うむしいで うしはき まもり さきはえ たまえる
みいさおの おおき ひさしき ひろき あつき おおむ いくしみを
かがふりて このうつしよに あらむ かぎりは
おおみかみたちの もとつ みこころの まに まにに

この ころを つくして うむことなく
この みを つとめて おこたる ことなく

うやまひ かしこみも つかえまつる さまを たひらけく やすらけく
きこしめして よよのくにの あおびとぐさをして

あめつちの かみわざに たがは しめず ひらけ よにおくれ しめず
くさぐさの わざわいなく つつがなく あらしめ たまえ

よのまもり ひのまもりに まもり めぐみ さきはえ たまえと
みそら はるかに おろがみ まつらくと もおす。

大御神御宝号（おおみかみごほうごう）

あまのみなかぬしおおみかみ

天之御中主大御神

本当の御名前は、ミナカヌシ様ですが、アメノ、アマノは、総称です。
アメノミナカヌシオオミカミ、アマノミナカヌシオオミカミと呼ばれているが、どちらも正解の呼称であります。
アマノミナカヌシオオミカミと唱えても、ミナカヌシと唱えても効果あり。

【唱え方】

あまの みな かぬ し おおみかみ とゆっくり三回唱え、みな かぬ し とゆっくり三回唱えて、後は、早口で唱える。
一息で約15秒、約二十一回唱え×六回・三分・三十分・一時間・二時間・二時間三十分と唱える。

神棚拝詞祝詞の奏上が終わったら、

拝礼（はいれい）

二拝 九拍手

(祈念) 一拝

※二拝九拍手(祈念)一拝は、最高神、天之御中主大御神様に捧げる最も良い数である、九は最高の数であるがゆえに、最高神を呼ぶのに最も良い数、九回の拍手打つ。

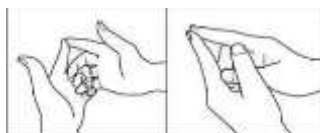
通常は二拝二拍手(祈念)一拝。

(ホツマ伝え) 天津被 (あまつはらえ)

※「とほかみゑひため」の言霊は、願望実現の為の究極の言霊である。一切の罪穢れを被い、福寿をもたらす大被詞の秘詞である。

とほかみゑひため とほかみゑひため とほかみゑひため とほかみゑひため とほかみゑひため

天津被い方位別唱え言葉



左図の様に鎮魂印を結ぶ

いちれいかんほど

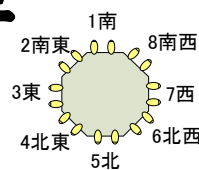
と 一霊感程

1、南を向き

きいつ

み 帰一

2、南東を向き



げんきまんしん

た 元気万進

3、東を向き

かいき

ほ 回帰

4、北東を向き

いっさいまんぎょうしん

ゑ 一切萬行進

5、北を向き

まんぼう

め 萬寶

6、北西を向き

せいめいじょうずほど

か 生命成就程

7、西を向き

しよえん

ひ 所縁

8、南西を向き

※図表に沿って、方位別に唱え言葉を唱える事。

とほかみゑひため とほかみゑひため とほかみゑひため とほかみゑひため とほかみゑひため

※クニトコタチは、トコヨクニを造りました、クニトコタチは、八人の御子を各方面に使わしました。八人の御子はクニキミと成り、クニサツチを名乗りました。エノミコト、ヒノミコト、タノミコト、メノミコト、トノミコト、ホノモコト、カノミコト、ミノミコト

この宇宙を開いた御親神みおやかみ（生命の始祖の神せいめい しそ）（天之御中主大御神）が、

とほかみゑひためやまとかみ と言う八元神に守らせている。

○はらひ たまひ ○と ほかみゑひため
○きよめ たまふ ○と ほかみゑひため
○めぐみ たまふ ○と ほかみゑひため

天津祓（あまつはらえ）

※「とほかみえみため」の言霊は、願望実現の為の究極の言霊である。一切の罪穢れを祓い、福寿をもたらす大祓詞の秘詞である。

とほかみえみため

○はらひ たまひ ○と ほかみゑみため
○きよめ たまふ ○と ほかみゑみため
○めぐみ たまふ ○と ほかみゑみため

はらひ たまひ とほかみえみため

きよめ たまふ とほかみえみため

めぐみ たまふ とほかみえみため

(二十遍唱える)

○と ほか み え み た め

祈念

これから、じゅうしよ『住所』せいねんがつぴ『生年月日』しめい『氏名』が、

のぞ望む『願い事』が、ねが ごと

かみさま きせき ちから しめい あた
神様の奇跡の力によって、『氏名』に与えられました。

ふか こころ かんしゃ ありがと
深く心より感謝します。有難うございました。

天之御中主大御神様

いつも奇跡の力で、私に恵みを頂き、誠にありがとうございます。(三遍)

【と】水の神 【ほ】火の神 【かみ】木の神 【えみ】金の神 【ため】土の神

『と』全ての事が成っていく象意、先も安定 『ほ』水蒸気が立ち上がる勢いのある象意

『か』陽気、運氣強く盛ん、神の助けあり 『み』物事が始まる象意

『え』陽氣盛んで、幸運を得る象意

『た』木の行き通う象意、男女の愛和

『め』ものの象意をそのまま表す象意

と言われる。はらいたまえ、きよめたまう、めぐみたまう、を別にして、とほかみえみためを唱える回数、二十一回とか四十回唱えないといけないと言われるが、私が思うに、人には、五人の守護霊つまりは魂の兄弟がいるので、五人×九回＝四十五回十ゆつくりと自分の分一回の合計五十四回唱えないといけない。つまりは、自分を守ってくれている魂に捧げるのである。葬儀、年忌の場合は、その人がお亡くなりになり、六人があの世に行っている状態なので、六人×九回＝五十四回同じ速さで唱える。ようは、誰の為に、とはかみえみためを唱えるのかによって、速さや唱える回数が違ってくる。

とほかみ とは、

とほつみおやかみ せんぞがみ
遠津御祖神（先祖神）

と かみ ことあまつかみ くにう かみ さんきし
十の神（別天津神・国生みの神・三貴子）

ことあまつかみ
別天津神とは、

あまのみなかぬしおおみかみ たかみむすびおおみかみ かむみむすびおおみかみ
天之御中主大御神・高皇産霊大御神・神皇産霊大御神・

うましあしかびひこぢかみ あまのとこたちかみ
宇摩志阿斯訶備比古遲神・天之常立神

くにう かみ
国生みの神とは、

いざなみのみこと いざなぎのみこと
伊邪那美之命・伊邪那岐之命

さんぎし
三貴子とは、

あまてらすおおみかみ つくよみのみこと すさのおのみこと
天照大御神・月読之命・須佐之男命

えみため とは、

感謝しています。微笑んで下さい。

とほかみえみためとは、御先祖の神様、十の神様、感謝しています。
微笑んで下さい。となる。

天津被 (あまつはらえ)

吐 普 加 美 依 身 多 女

国津被 (くにつばらい)

寒 言 神 尊 利 魂 陀 見

蒼草被 (ひとあおくさのはらい)

波 羅 伊 玉 意 喜 餘 目 出 玉 登

天津祝詞（あまつのりと）

たかまのはらに かむづまります

かむろぎ かむろみの みこと もちて

すめみ おやかむ いざなぎの みこと

つくしの ひむかの たちばなの おどの

あわぎはらに みそぎ はらひ たまふ ときに

あれませる はらへどの にじゅうろくしんの おおかみたち

もろもろの まがごと つみ けがれを

はらひ たまひ きよめ たまふと もおす ことの よしを

あまつかみ くにつかみ やおよろずの かみたちと ともに

あまの ふちごまの みみ ふりたてて

きこしめせと かしこみ かしこみ もおす。

柳山山神祓祝詞

(やなぎやまやまのかみはらいのりと)

たかまのはらに かみとどまり まします

すめむつ かみろぎ かみろみの みことを もちて

さつませんたいしの やま たはたを おまもり くださり

おおくの やまの さちを おめぐみ くださる

たかえのちに そびえたつ やなぎやまに すまわれる

やなぎやまおおやますみおおやまがみを たてまつりて

あをとのにきて みもと

しらとのにきて みもとを ひとつらに おきたてて

くさぐさの そなえもの おき たかなして

かみほぎに みほぎ たまへば はや きこしめして

あしきこと とが たたりは あらじものをと

はらひ たまひ きよめ たまふ よしを

やおよろづの かみたち もろともに きこしめせと もうす。